

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。</p> <p>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。</p> <p>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。</p> <p>(3) 「命」を大切に作る心、人への思いやりの心を育成する。</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力と的確な判断力を身に付けるとともに、自ら進んで学ぶ態度を身に付け、自分の意見をしっかりと持ち他者と協働して課題解決に取り組む生徒 ・心豊かで思いやりがあり、多様な人々の互いの人格を尊重する人権感覚に富む生徒 ・地域社会の一員として積極的に考え行動し、常に進取の気概に富む21世紀を担う国際性を備えた生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力・課題解決力を育成するための「課題自体の背景の研究やその調査、探究的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」・「キャリア教育」の推進 ・多様な授業形態や活動を「探究的な学び」・「各教科学習」・「高大連携」・「地域連携」に取り入れるとともに、ICTの活用による生徒のコミュニケーション能力伸長と発信力の育成 ・生徒一人ひとりの個性や長所に応じて、その能力や特性を十分に伸長するとともに、「私が決める、私の未来」と題された生徒本人が自身の進路目標に沿って構築する本校独自の年次を超えた単位制カリキュラムの実施 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、お互いや他者の多様性を尊重し、協働しながら主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・自ら進路志望の明確化を図り、多様な学びに主体的に取り組み、自己の可能性に挑戦し充実した学校生活を送る意欲のある生徒 ・生徒会活動や部活動などの校内の活動や地域貢献活動などの校外の自主的な活動やボランティア活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教務		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からは、ほぼすべての項目において昨年度と同程度の傾向が見られる。 ・保護者の「教職員」「学習指導」では「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計がすべて減少している。「学校独自項目」の「生徒の主体性を引き出す指導や様々な面からの学習の評価」においても同様であり、改善の方向に向かっている。 ・生徒の「教職員」「学習指導」では「よくあてはまる」がすべてにおいて増加している。また、「学校独自項目」では「生徒の主体性を引き出す指導や様々な面からの学習の評価」の「あてはまる」が増加し、「あてはまらない」が減少した。 ・全年次単位制の2年目となり、本校の特徴を活かしつつ、1年目の取り組みを見直した結果だと思われる。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動を重視し、ICT等を活用することで、授業をより深い学びの場とする。 ・評価方法をより明確にすることで、それぞれの生徒に自分の到達点を的確に捉えさせる。 ・業務内容を見直して、より効率的に取り組めるように環境を改善する。 		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会 ・学校行事検討委員会 ・各年次会 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR総合的な探究委員会 ・教務部会 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程委員会において、各教科の成果と課題、探究活動等における成果と課題を明確にする。</p> <p>(2) 観点別学習状況評価に基づいた達成目標と評</p>	<p>(1) 成果と課題を共有することができたか。それらを実践に活かすことができたか。</p> <p>(2) 評価方法を生徒に明示し、それを元に生徒自身が到達点を把握することができた</p>		

<p>価方法を確立し、それらを実践する。 (3) 日々の業務と考査などの年数回の業務を区別するなど、教務部の業務を整理する。</p>	<p>か。 (3) 担当者以外でも業務の内容が分かりやすく整理されているか。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>① 行事等でカットされる科目を調整して、トータルの授業時間数を平均化する。MetaMoji Classroomやmanabaを積極的に活用する。</p> <p>② 観点別学習状況評価の基準に従って評価を決定する。具体的な方法について、各教科で話し合うだけでなく、他教科とも情報共有する。</p> <p>③ 共用の空間で落ち着いて過ごせるように、ICT機器だけでなく、案内標示について、より分かりやすくなるように環境を整備する。</p>	<p>10 評価視点</p> <p>① 単位制の特色やICTを活かし、より深い学びの場となっているか。</p> <p>② 生徒が自身の到達点を把握し、次に目指す目標を明確にできるか。</p> <p>③ 学習環境がより効率的かつ落ち着いたものとなっているか。</p>	<p>11 評価</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
<p>12 成果・課題</p> <p>○定期考査の実施においては単位制に移行して選択科目が増加したことによって2年次と3年次では個々の生徒で時間割が異なるなど、複雑になってしまう。考査の表紙や座席表の作成など、実施のあり方を見直すことで、生徒にとって情報が把握しやすくなり、落ち着いて受験できるようにすることができた。</p> <p>○12月に「がやがや会議（仮称）」を開催し、スクールポリシーを元に、本校の現状と進むべき方向について話し合うことができた。そこから得られた課題と解決のための方策について職員間で共有することができた。</p> <p>○職員の業務において、自動採点システム「百問繚乱」の利用を進めることができた。また、夏季休業後より「e教務」の日毎入力で授業の出欠を管理するようになった。これらの業務改善により、時間短縮と負担軽減を実現することができた。</p> <p>○教務部関連の備品を充実させることができた。具体的には、案内を掲示できるフロアスタンド、動線を規制できるベルトパーティション、オンライン配信で活用できるUSBマイクとトランスシーバー、文書を厳重管理できる耐火金庫などを備えることができた。これらを行事等で活用することにより、内容をより充実させることができた。</p> <p>△本年度の1年次は新学習指導要領となり、観点別学習状況評価が導入された。各教科で事前に練り上げた方法で評価を行ったが、考査の平均点が予想から大きく離れてしまうなどにより、調整が必要となった。観点別に基づいた問題作成の難しさを認識した。</p> <p>△新型コロナウイルス感染拡大防止に対する対策が変化し、教育活動のいくつかが従来の形に近づけることができた。生徒たちにとって、充実した経験となったが、教員にとっては、3年ぶりに実施することになり、その変化への対応の難しさを感じた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況評価について、来年度は2年次が加わることで、2年次と3年次合同の授業も加わることで、対象の科目が一気に増える。何にどのように取り組むことで評価させるかを生徒にしっかり理解させる必要がある。 ・本校の特徴として、授業を真面目に受け、定期考査に向けてしっかり取り組む生徒が多い。その姿勢を礎にして、学力を伸ばす生徒をさらに増やしていく。1年次と2年次の学習をより充実させ、卒業直前まで学力を強化する体制を継続する。 ・大規模改修が来年度行われる計画があり、昇降口を変更したり、ホームルーム教室を特別棟に移すなどの対応が必要となる。2年次および3年次では選択科目が多く、移動教室で授業を受けることもあり、十分な計画を練り、周知徹底しないと混乱が生じることになる。教務部として、前倒しでできる準備は積極的に完了しておく必要がある。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の働きかけが十分であり、どの生徒も授業に真面目に取り組んでいて、大変よい雰囲気である。 ・選択科目が充実していることは、生徒が自ら決断して取り組む姿勢を養うことに繋がると思われる。 ・社会人になると体調不良での欠勤は容易に受け入れられない。健康管理にしっかり取り組めるような習慣を高校生の時から養ってほしい。 ・ICT機器を活用した授業が実践されており、この状況を中学生やその保護者に広報できるとよい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「適した進路情報の提供」では生徒81.0%が、「希望に沿った進路指導」でも86.4%が肯定的評価であり、昨年より増加した。今後も生徒一人一人に沿った進路支援を丁寧に行っていきたい。 ・「進路情報の提供」「生徒個々の進路希望に沿ったアドバイス」に対する保護者の評価は、それぞれ69.9%、59.5%で、概ね満足されている。引き続き適切な進路指導や質の高い指導を研究・推進していく。 ・総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の充実と推進に努める。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導重点校事業を活用し、キャリア教育を充実させ、社会で自己を生かすために主体的に努力できる人材を育成する。 ・卒業時に進路目標が実現できるよう学力の定着と伸長を目指す。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究委員会 ・教育課程委員会 ・進路指導部会 ・3年次会 ・研究推進部会 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)「志望理由書の書き方」講演会や教員研修会を実施し、キャリア教育を充実させる（総合的な探究の時間を中心に展開） (2)学力の定着（夏季補習、外部模試） (3)進路情報の提供（各種ガイダンス・資料室整備） (4)進路相談の充実と支援体制の強化	(1)生徒一人一人の将来を見据えた具体的進路指導の充実と生徒の満足度の向上 (2)学力の向上と進路目標の実現 (3)時期や内容を考慮した各種ガイダンスの実施 (4)進路指導に対する肯定的評価の向上	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①1年次は、職業及びフィールド選択研究、2年次は学部学科等の研究、3年次は入試対策など進路目標の実現のための方策を中心に実施する。 ②補習、外部模試等を利用した学力向上に努める。 ③各種ガイダンスを充実させて、進路学習に資する。 ④年次会との連携を密にし、生徒情報の共有と外部情報の適切な提供に努める。	①進路学習が有効に行われ、進路目標が実現できたか。 ②学力の向上に役立ったか。 ③進路選択に資することができたか。 ④適切に進路指導を行うことができたか。	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果・課題	<p>○全年次対象「志望理由書の書き方」講演会と教員向け指導研修会は、具体的な対策方法や探究活動の意義等が理解でき、大変有意義であった。</p> <p>○3年次の総合型・学校推薦型選抜への対策として、面接・小論文・志望理由書作成等、より実態に即した丁寧な進学指導に力を入れた。</p> <p>○今年は1年次の進路別ガイダンス、2年次の大学模擬授業、各種進路講演会・ガイダンスなどを対面実施と、ICTを利用したオンライン実施とをうまく使い分けるなど、工夫して実施することができた。</p> <p>○3年次会との連携を密に行い、詳細な打ち合わせを重ねることによって複雑な入試制度に対応できるよう工夫することができた。</p> <p>▲「大学入学共通テスト」など新カリキュラムに対応した入試について、正確な情報を職員や生徒に伝え、指導内容、方法をより工夫していく必要がある。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導重点校事業を活用し、大学入試改革の動向を踏まえ、入試制度の周知徹底や面接・小論文・志望理由書対策等の指導力強化を図る。 ・進路志望調査や入試統計のICT化、生徒の進路指導へのICT導入について研究する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望理由書作成の指導は、生徒に主体性を持たせるのに役立つ。また、大学での就職活動でも必須であることから今後とも力を入れてほしい。 ・社会で活躍している本校卒業生を招いて講演するなど、OB、OGを大いに活用してもらいたい。 ・部活動等と両立しながらも、勉強に向かうモチベーションをもっとあげられないか。

・希望する職種について知るために、インターンシップを行ってはどうか。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇生徒指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー指導、相談、いじめや差別に対する指導すべてにおいて、生徒の肯定的評価が増加した。 ・いじめや差別に対する指導については、生徒の85%が肯定的な評価で昨年度より10%増加したが、わずかではあるが否定的な評価があることを重くとらえ、生徒全体にいじめや差別についての指導を徹底していきたい。保護者はいじめ対応についてわからないという回答が半数を超えている。メール配信などで理解を求めている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校指導（挨拶・交通安全）の継続的实施（MSリーダーズによる活動） ・問題を抱えている生徒への支援 ・いじめの未然防止と適切な早期対応および心のケア ・多様化する生徒への支援（服装など） 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任・年次会・生徒指導・教育相談の緊密な連携 ・管理職への迅速な報告 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝の校門・昇降口での挨拶・交通安全指導（含MSリーダーズ） (2) 教育相談・学年会・保健室・HR担任との緊密な連携と支援計画づくり (3) いじめ早期対応に向けての取り組み	(1) 昨年度までの統計との比較 [問題行動・遅刻・交通事故の減少率] 20%以上：A 0%以上：B -10%以上：C -10%未満：D (2) 教育相談アンケートの実施 [教育相談アンケート実施回数] 8回以上：A 5回以上：B 3回以上：C 3回未満：D (3) 全校体制によるいじめ早期対応 [いじめ対策や人権についての生徒・保護者の指標] 60%以上：A 50%以上：B 40%以上：C 30%未満：D	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
① 情報モラル・マナー指導 ② 交通安全委員会による交通安全活動 ③ 生活委員会による挨拶運動 ④ いじめ案件経緯メモの活用およびいじめ防止啓発LHRの実施 ⑤ 教育相談アンケートの実施	① 問題行動が減少したか。 ② 交通事故件数が減少したか。 ③ 1日当たりの平均遅刻人数は減少したか。 ④ いじめ問題や人権に対する指導は効果的であったか。 ⑤ 教育相談アンケートで生徒の声を把握できたか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
12 成果・課題	○交通事故件数は昨年度より減少した。登校指導（MSリーダーズ活動含む）やメールなどで余裕を持って行動するよう注意喚起を実施した成果である。 ○いじめ事案は増加したが、その要因については、心のアンケートや担任の先生方の懇談などで気づいた情報を早めに共有し、人間関係トラブルなども積極的にいじめと認知して組織として対応することができたためである。 ○行事での交通整理などを学校全体で協力してもらい、業務削減につながった。 ○交通安全啓発や新制服検討など、生徒会と連携した活動ができた。 ▲遅刻については、11月以降の3年次生の遅刻が落ち着いている状態である。しかし、不登校傾向、起立性調節障害などの理由のある遅刻者が多くなった。 ▲いじめ事案の組織としての早期対応はできているが、いじめに関する取組についての保護者の理解がなかなか得られていない。 ▲教育相談案件や保健室登校、利用が急激に増えたため、対応しきれないことがあった。年次と協力していく必要があると感じた。	
13 来年度に向けての改善方策案	・昨年度から始動した制服改定へ向けて、生徒会と連携しながら進めてきた。いよいよ新制服となるが引き続き生徒会と連携して多様な生徒に対応する運用を考え、より過ごしやすい学校を目指す。	
		総合評価 (A) B C D

- ・講話などの企画に生徒会などにも参加してもらい、生徒中心のLHR活動を増やしていくことで、自分たちでモラル、マナーについて考えることができる生徒を育てたい。
- ・岐阜県自転車条例によるヘルメット着用努力義務について、自転車運転者自らがヘルメット着用の重要性を理解して着用するよう、教員のみでなく生徒会やPTA、外部の協力も呼び掛けながら学校全体で啓発活動を推進する。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

- 【意見・要望・評価等】
- ・学校でのいじめやモラル教育などの内容を、保護者にも伝える機会があると良い。今後は、生徒のみではなく家族全体でモラルについて考えていく機会を設けていくべきである。
 - ・校則などが、学校側からの一方的な根拠によるものにならないよう、生徒や保護者の意見も取り入れながら毎年見直していく必要がある。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇研究推進														
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域と連携した教育活動を行っている」に関して肯定的な意見が、生徒は6割強、保護者は「わからない」を除くと9割近くであった。 ・「『総合探究』の時間の内容は自分にとって有意義である」に関して肯定的な意見は、生徒は7割であった。 ・生徒の評価はいずれも昨年度より上回っており、より計画的で継続的な取り組みにしていくよう努めたい。 														
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇フィールド選択・科目選択の指導 ◇地域課題探究型学習の企画・運営 ◇本校の魅力の発信 														
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会 ・LHR・総合的な探究の時間委員会 ・拡大学習指導委員会 														
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
(1) フィールド選択や科目選択の指導の改善 (2) 地域課題探究型学習の指導計画作成 (3) 学校説明会における本校の魅力の発信	(1) 科目選択の手引き (2) 授業の指導案作成 (3) 中学生の進路希望状況														
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価													
①1, 2年次生の科目選択指導を全職員で行い、科目登録を行った。 ②ベース時間割のさらなる改善を行い、それぞれの生徒の進路希望により適した科目選択ができるようにした。 ③中学校の進路説明会において、本校の特長を説明した。	①本校の教育目標に沿ったものか。 ②わかりやすいものであるか。 ③本校を希望する生徒が増えているか。	<table border="0"> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		(A)	B	C	D	(A)	B	C	D	A	(B)	C	D
(A)	B	C	D												
(A)	B	C	D												
A	(B)	C	D												
12 成果 課題	<p>○1年次生に対して、全職員の協力体制のもと、フィールド選択・科目選択指導を行うことができた。選択した科目の登録などは、ICTを用いて簡素化することができた。</p> <p>・○来年度は、3年次生は現行のカリキュラム、2年次生は新カリキュラムとなり、科目選択がより複雑になった。そのため、ベース時間割作成には困難をきたしたが、何とか作り上げることができた。</p> <p>○探究活動は、昨年度よりは計画的に行うことができた。しかし、まだまだ模索中であり、年間を通じての計画立案が必要となる。</p> <p>▲1年次生の科目選択指導が尚早とのご意見をいただいた。来年度は7月から始める予定にする。</p> <p>▲探究活動における地域との連携をさらに具体的に考えていきたい。</p> <p>▲自己管理のための「マイ手帳」の活用が一部の生徒にとどまっている。習慣づけできるまでは声かけをしていきたい。</p>		総合評価 A (B) C D												

13 来年度に向けての改善方策案
<ul style="list-style-type: none"> ・開講科目の内容やフィールド選択・科目選択の指導法など、教育課程委員会や各教科と連携して、より生徒に合致した単位制高校にしていくよう改善をはかりたい。 ・1年次生の科目選択指導は、来年度は7月から始める計画にする。 ・「探究活動」を、より生徒の興味関心に沿うもの、かつ地域に根ざしたものにしていきたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方は、工夫して勉強して教育活動を行っていると感じることができた。 ・何を行うにしても、本人のモチベーションがとても大切。生徒のモチベーションをいかにして勉強につなげていくか、その環境づくりをお願いしたい。 ・地元の自治体と一緒に、地域を盛り上げる活動を行ってほしい。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇特別活動	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業以外の学習機会や学校行事の有無、又はその実施方法等について、生徒の安全を最優先とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。」に対して生徒（77.5%）、保護者（94.6%）がよい評価をしている。コロナ感染症も3年目を迎えたが、良い対策が行われていると考えられる。 ・「部活動が適切な管理体制のもとに、適切に行われている」に対して生徒（77.4%）、保護者（89.1%）とよい評価を受けている。 ・「ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。」に対して生徒（88.0%）保護者（77.4%）であった。徐々にではあるが、近隣の清掃活動など行えた成果であると考えられる。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇コロナで停滞した、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の活性化を図ることにより、生徒の目的意識を高めると共に、主体的に取り組む姿勢を育成する。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒会執行部，各種委員会，部顧問会議	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事の企画内容の見直しと生徒会における役割の明確化。 (2) 生徒が主体的に取り組む部活動運営。 (3) ボランティア活動に対する意識の向上とボランティア活動への積極的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事に対する生徒と保護者，教員及び地域・学校関係者による満足度。 (2) 部活動に対する生徒と保護者，教員及び地域・学校関係者による満足度。 (3) ボランティア活動に対する生徒と保護者，教員及び地域・学校関係者による満足度。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりの生徒参加の北翔祭の実施。 ・部活動の数や活動内容の精選。 ・学校周辺の清掃活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒が自ら考え、よりよい方法を考えることができたか。 ②部活動に対する取り組みが積極的になったか。 ② 生徒が積極的に参加・協力できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D A B C D
12 成果課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○3年ぶりに全生徒が参加する、北翔祭を開催することができた。クラス企画など新たなアイデアを出し期待以上の活動ができた。 ○新型コロナウイルス感染症対策に伴い行えていなかった、ボランティア活動を再開することができた。 ▲学校行事等コロナ前の状況に戻していきたい。また、見直し等を行い発展させたい。 ▲地域と関わる活動をほとんど提供できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D 	
13 来年度に向けての改善方策案		

- ・生徒活動と地域探究活動をリンクさせ、地域と連携した活動を活性化させる。
- ・部活動の安全な実施方法を新たに研究する。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北翔祭はレベルが高く、生徒の表情も生き生きとしており非常に評価できる。工夫した取組が多く、この経験が今後の人生の糧になる。 ・ずっと制限を受けてきた部活動が活発な活動を再開し始め非常に良い。生徒と一緒に部の活躍を応援でき、感動することができた。高い評価に値する。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇保健厚生	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒への安全や衛生面への配慮」に対し保護者（96.1%）、生徒（86.5%）の高い評価を得ている。 ・「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」の項目では、保護者（97.2%）、生徒（92.7%）と非常に高い評価を得ている。 ・「新型コロナウイルス感染症対策」について保護者（94.6%）、生徒（77.5%）の昨年度より高い評価を得ている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇健康・安全で活力ある基本的習慣の確立。 ◇学習環境の美化・整備を通じて、環境への視点の育成。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会（アレルギー対策委員会）・防災委員会 ・保健委員会・環境委員会・美化委員会 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 職員研修（応急手当、心肺蘇生） (2) 健康診断後の事後指導 (3) 安全点検・校内美化活動の推進 (4) 命を守る訓練、津波防災の日、非常変災時における帰宅確認予行 (5) 新型コロナウイルス感染症対策	(1) 応急手当資格取得（救命入門コース参加証） (2) 医療機関への受診率 (3) 施設設備の充実度・ごみ処理量の減少 (4) 避難時間の短縮や非常変災時における対応。 (5) クラスター等の感染者の発生状況	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①消防署員による職員研修の実施。	①応急手当参加資格取得率	(A) B C D
②各種健康診断後の要受診者に対する医療機関受診への呼びかけ。	②各医療機関での受診率	(A) B C D
③定期的な安全点検の実施。美化委員会を中心とした校内美化活動の実施。環境委員会によるゴミの減量化、分別回収、リサイクルの推進。	③安全面や衛生面への配慮ができたか。	A (B) C D
④命を守る訓練・津波防災の日の実施。非常変災時における帰宅確認予行の実施。	④命を守る訓練の達成度。	A (B) C D
⑤新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインに則した取り組みを学校全体で実施。	⑤学校全体での取り組む姿勢。	(A) B C D
12 成果・課題	総合評価	
○新型コロナウイルス感染症対策により、ここ数年開催できなかった職員研修（応急手当実技講習）が感染対策を講じながら実施できた。 ○定期的な安全点検による安全性の確保。また、非常変災時における対応が周知された。 ▲新型コロナウイルス感染症対策により例年通り実施できていなかったワックスがけや大掃除などの清掃活動の充実。	(A) B C D	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・県から発出される新型コロナウイルス感染症対策方針等を周知徹底し、学校全体で取り組む。また、美化委員会を中心とした校内美化活動への取り組みを強化する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室環境等、新型コロナウイルス感染症対策が適切になされている。文化祭中も生徒主体で感染症対策を実施しており、評価できる。 ・避難経路の確保や環境の不具合について適切に対応しており、評価できる。 ・健康診断後の事後指導については、夏休み前に生徒への周知を徹底し、受診率を上げてほしい。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇図書視聴覚 渉外広報	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや部活動後援会等の関係団体の徴収金の執行内容に関する項目で保護者94.7%生徒89.2%の高評価を得ている。PTA総会の内容が広く理解されていると考えられる。 ・学校ホームページの情報提供に関する項目について、保護者91.4%、生徒90%の高評価を得ている。HPの更新や情報提供がスムーズに行われ、保護者生徒にきちんと伝わったことがわかる。 ・図書館に関する項目はないが、施設設備の項目において「学習環境の面でほぼ満足できる」という点で80%の好意的な評価を得ている。図書館についても館内以外の情報提供など積極的に行った結果が含まれていると考えられる。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇PTAの各行事の内容充実を図るとともに、参加率を高める。 ◇国際理解に関する教育を充実する。 ◇図書館環境の整備・充実に努め、読書への興味関心や利用率を高める。 ◇学校HPの更新などを随時行い、様々な情報を速やかに伝える。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・企画運営委員会、PTA運営委員会、年次会、図書視聴覚委員会 ・生徒会、図書委員会 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) PTA各種行事の参加率増加のため、保護者の意見を反映させ行事の充実を図る。 (2) 「国際理解プログラム」のさらなる充実。 (3) 図書館利用促進他のための広報活動。 (4) 図書館における授業・LHR活動の準備。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各種行事の内容の充実と参加率の増加 総会参加率 [25%以上A 20%以上B 15%以上C 15%未満D] 大学見学参加率[10%以上A 8%以上B 4%以上C 4%未満D] (2) 内容の検討・充実 生徒アンケート結果 (3) 図書の貸出数・来館者を比較（前年度）。 (4) 授業・LHRでの利用回数の比較（前年度） 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各種行事への保護者の参加率を高めるため、関心を持てる講演や内容を企画する。 ・「国際理解教育プログラム」の内容を生徒の実態に合わせて検討し、充実したものにする。 ・校内読書感想文・小論文コンクールの実施。本の紹介等、図書館利用を働きかける。 ・図書委員によるイベントの企画と運営。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種行事への参加率が目標値に達したか。また内容的に満足いくものだったか。 ②国際理解プログラムは生徒にとって充実したものだったか。 ③図書貸出数と生徒の利用状況。 ④イベントの参加・利用状況。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D
12 成果	総 合 評 価	
<ul style="list-style-type: none"> ○一部Webによる開催も含まれるが、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら多くのPTA行事を実施することができた。大学見学会、PTA研修会などにおいて保護者の声を実際に聞くことができた。 ・○年3回の「国際理解プログラム」を実施し、ICT機器を使いながら外部の方の講演を聞いたり、生徒が主体的な活動を行ったりすることができた。 ○北翔祭への参加、店頭選書などこれまでできなかったことが開催でき、図書委員が積極的な活動を行うことができた。 ▲学校HPのさらなる充実を図るため、他分掌と相談・連携し、魅力的なHPを作成する必要があると思われる。 ▲ICTを利用した情報発信や、視聴覚室のICT化など遅れている部分も多いため、関係各所と連携を取りながらより良い方法を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D 	
13 来年度に向けての改善方策案		

- ・ P T A行事に関して、参加した保護者の意見を多く取り入れて、参加率を高めていきたい。
- ・ 来年度、国際理解教育において年間を通した取組を行っていく。生徒にとって実のある取組になる方法を探っていきたい。
- ・ 「生徒のための図書館」であるために、利用しやすい図書館づくりと蔵書管理をしていきたい。そのための情報発信や企画など、生徒主体の活動を委員会を中心に考えていきたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】

- ・ 次年度以降また学校行事と P T Aとの連携を図っていけるよう互いに模索していきたい。
- ・ 国際理解教育は本校の大きな柱の一つであるので、世界情勢を見ながら継続的な取組をしてほしい。